 平成19年度文部科学省科学技術振興調整費  
「女性研究者支援モデル育成」事業

# 平成19～22年度 「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」

2007—2010 Women Researchers Support Model Chiba University



# 千葉大学における女性研究者支援

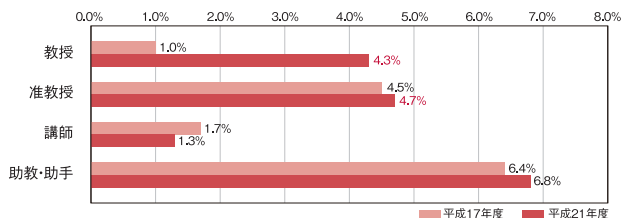
千葉大学では、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」がスタートしました。

本事業では、平成18年度に学内に設置した「両立支援企画室」(教職員の研究・教育・事務などの職務と、育児・介護など個人の生活の両立を支援するための組織)が中心となって運営を行い、本学の女性研究者(大学院生から教員まで)が、より能力を発揮し活躍できるよう、学内の環境整備や意識改革などに取り組んでいます。

平成21年に本事業は3年目を迎え、女性がキャリアを継続して能力発揮できる支援体制の整備や、学内の意識改革の推進などに取り組んだ結果、本学の女性研究者比率は、取り組み前の平成17年度には教授2.9%、准教授4.5%から、平成21年度には、教授が4.3%、准教授は4.7%と上位職位における女性研究者比率が増加しました。さらに本学の教育研究管理職である女性部局長も、平成20年度までは看護学部長1名でしたが、平成21年度から3名(看護学専攻長、普遍教育センター長、環境健康フィールド科学センター長)となるなど、これまでの取り組みの効果が表れてきました。本学では、今後も両立支援を推進するとともに、男女共同参画そして女性研究者支援のさらなる加速に向けた取り組みを強化していきます。



[千葉大学の女性研究者 職位別比較]



## 千葉大学「女性研究者支援モデル育成」事業シンボルマークについて

本事業のシンボルマークは、千葉市の縄文遺跡から発見され、大賀一郎博士によって開花した「大賀ハス」に由来しています。生育環境を整えることで2000年前の種が発芽・開花した事実から、女性研究者をハスの花になぞらえ、環境を整備することで、女性研究者が大輪を咲かせるようお願いを込めています。



## 学長メッセージ

組織担当理事 嶋津 格

女性研究者支援は本学でも活発に取り組まれてきていますが、女性研究者がそれぞれに異なった困難を抱えているのが事実であり、それらに対応する温かい支援をしていかなければなりません。

増加しつつある女性研究者比率を今後も維持しつつ、女性と同様に男性研究者も頑張れる環境づくりが、今後はとても重要になってくると思います。本学の「両立支援企画室」を中心に、全学的に男女共同参画を進めていけるように期待しています。



## 理事メッセージ

千葉大学長 斎藤 康

日本の女性研究者比率は10%程度と、先進国の中では決して多くない数値です。千葉大学は比較的検討している一方で、創立60周年を迎えた平成21年には17%程度に高まりましたが、まだ十分ではありません。

女性研究者の活躍が少ないことが、家事、育児などの負担や、ある種の偏見からくる障害などが原因だとすれば、改善策を取るべきです。創立70周年を迎えるころには、より多くの意欲と力のある女性研究者が増えているよう、いくつかの対策を取りたいと思っています。



## 60周年を迎えた千葉大学

千葉大学は昭和24年、県内にあった7つの学校を統合して新制国立大学として発足し、平成21年に創立60周年を迎えました。



# 事業概要

千葉大学では、女性研究者がキャリアを継続して能力発揮できる支援体制を整備することを目的に、3つの柱で「支援循環型体制による女性研究者支援」に取り組んでいます。

## 支援循環体制を支える「3つの柱」

### 両立支援基盤

支援循環体制の基盤づくり

#### 1. 両立支援(ワーク・ライフ・バランス)体制の基盤づくり

支援循環体制の基盤として、各年代層の研究者が育児や介護を両立できるよう、勤務制度改革、支援要員配置など学内支援体制を整える。

### 支援循環型体制

支援と人的資源の循環づくり

#### 2. 支援と人的資源の循環づくり

支援を受けた女性研究者が、コーチングやマネジメントに関する知識を得て、研究者がお互いのキャリアを支援し合ったり、女性大学院生のメンターを務めたりすることで、自らが受けた支援を相互支援や若手女性研究者の育成として還元する支援循環体制をつくる。

### 意識改革

広報などを通じた体制づくり

#### 3. 意識改革

ホームページやニュースレターで情報を発信し、学内の意識啓発を行うとともに、各部署に「両立支援室」を設置し、部署にあった女性研究者支援やFDを実施する。

## 室長メッセージ

両立支援企画室 室長(看護学研究科 教授) 森 恵美

私は、女性の健康を生涯にわたって支援する学問領域「母性看護学」を研究しており、母親だけでなく父親に対する育児支援や、不妊で悩むカップルの支援も大事な研究テーマのひとつとして考えています。そこで両立支援企画室では、本学の女性研究者支援の一環として、勤務制度改革に取り組み、平成21年度には、男女ともに取得できる「育児や不妊治療を支援する勤務制度」の導入を実現しました。

女性研究者においては特に理系分野で、若い方々の手本、すなわちロールモデルとなるような存在が少ないのが現状です。本事業を通じて支援を受けた女性研究者がロールモデルとなり、若手を支援する「支援循環型体制による支援」を推進していきたいと思っています。



## 両立支援企画室の体制

両立支援企画室は学長直属の組織で、主に全学に対する両立支援のためのニーズ把握、支援制度の整備、推進等、教職員の仕事・研究と家庭生活の両立(ワーク・ライフ・バランス\*)を支援するための取り組みを行っています。

### メンバー

室長 森 恵美 (看護学研究科 教授)

副室長 寺崎 朝子 (融合科学研究科 助教)

室員 片桐 雅隆 (文学部 教授)

貞廣 斎子 (教育学部 准教授)

松岡 延浩 (園芸学研究科 准教授)

喜多 和子 (医学研究院 講師)

門田 朋子 (千葉大学グランドフェロー(元医学研究院/准教授))

遠藤 雅子 (特任准教授)

秋元 美鈴 (事務補佐員)

岡田 加奈子 (教育学部 教授)

丁 志映 (工学研究科 助教)

矢口 博久 (融合科学研究科 教授)

小林 カオル (薬学研究院 准教授)

小玉 小百合 (特任研究員)

大井 知子 (事務補佐員)



\*ワーク・ライフ・バランスとは?

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。  
～平成19年7月 男女共同参画会議「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」より～

# 両立支援基盤

各年代層の研究者が、研究と家庭生活(育児や介護など)を両立できるように、学内での支援環境整備を進め、女性研究者だけでなく、男性研究者や本学で働く職員や大学院生などにも役立つ支援体制を整備。

## 育児負担のある女性研究者への 研究支援要員配置 (利用者数:延べ20名)

平成20年度より、育児負担のある女性研究者の研究活動を支援するため、希望者に「研究支援要員(研究・実験補助者)」を配置しています。  
平成21年度には学長裁量経費にて、女性研究者だけでなく、介護負担のある女性研究者や男性研究者にも支援を拡大しました。

### [利用実績]

平成20年度(7名)	
融合科学研究科	1名
薬学研究院	1名
教育学部	1名
人文社会科学研究所	1名
医学部付属病院	3名
平成21年度(13名)	
融合科学研究科	2名
工学研究所	2名
園芸学研究所	2名
薬学研究院	2名
文学部	2名
人文社会科学研究所	1名
医学研究院	1名
医学部付属病院	1名

## 研究支援要員利用者の声

融合科学研究科(教授) 西川 恵子

研究支援要員の方には研究対象であるイチゴの基本的な栽培管理や組織培養での増殖作業、学生のほうから日々提出されるデータの入力作業などをお願いしており、学生と接する時間を確保する上で非常に役立っています。  
家庭では3人の子どもを育てておりますが、主人や家族、職場の方々からの助けがあるおかげで、好きな仕事を続けられてとてもハッピーだ、と素直に感じています。時々家族を研究室にも連れてくるのですが、家族がいるからこそ、研究生活もより楽しくなることを学生さんたちに少しでも感じ取ってもらえたら幸いです。



## 勤務制度改革の実施

平成21年4月1日より、本学の両立支援の一環として3つの勤務制度が導入されました。

- 1 育児短時間勤務  
(育児短時間勤務制度の対象が小学校3学年まで)
- 2 育児部分休業  
(育児部分休業が小学校就学の始期に達するまで)
- 3 不妊治療にかかる休暇

## ベビーシッター派遣による「病児保育システム」 の実施

(利用登録者60名:平成21年12月時点)

- テレビ会議システム(3キャンパスに設置)の運用
- 育児クーポン・介護クーポン発行
- 学会開催時の保育室(けやき会館和室)無料貸出
- 女性専用休憩室・マタニティコーナーの整備
- 学内にベビーシート新設

# 支援循環型体制

支援を受けた女性研究者が、コーチングやマネジメントに関する知識を得て、研究者がお互いのキャリアを支援し合ったり、女性大学院生のメンターになったりすることで、自らが受けた支援を還元する体制を整備。

## 先輩女性研究者からのメッセージ

融合科学研究科(教授) 西川 恵子

研究者を目指す女性にまずお伝えしたいことは、独自性を持つことの大切さです。「これに関してはあなたしかいない」と思われるようなテーマを持つことが、研究者として長く活躍する上で不可欠です。

そして、広い視野を持つこと。自分の専門にとどまらず、その周辺領域、あるいは雑学でもよいので、視野を広くする努力を若いうちから行っていただきたいと思います。こうしたことは、ネットワークを広げるうえで特に役立つはずです。



## メンター制度 ～メンター協力ネットワーク～

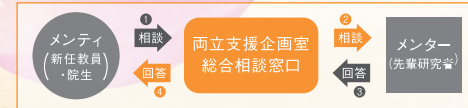
本学では、女性研究者支援モデル育成事業の一環として、平成19年度から先輩研究者によるピアサポート、メンタリングを実施しています。女性研究者や若手研究者が研究活動を続けていくなかで戸惑いや不安を感じたとき、メンターとして登録している研究者(男女問わず)が、先輩の立場から相談に応じる体制を整えています。現在のメンター数(平成21年12月現在)も73名(女性36名、男性37名)となるなど、成果が現れつつあります。

メンター協力ネットワークの特徴は、複数対複数のグループメンタリングです。小規模な交流会で複数のメンターから研究に関する話、研究とプライベートでの生活を両立させるためのヒントなどをヒアリングするなかで、メンティ(相談者)は自分自身の課題に気付き、生活を工夫するための知恵を学ぶことができます。

### ●メンター交流会の開催

(平成20～21年度 延べ10回開催 71名参加)

[メンター紹介の流れ]



総合相談窓口では、①メンティからの相談を②メンターに伝え、③メンターからの回答を④メンティに伝えます。個別相談を希望の方には、①～④の流れに沿って、面談日をメンティに連絡します。

### ●女性研究者の能力育成

(コーチングセミナー、マネジメントセミナー 平成20～21年度 延べ15回開催 269名参加)

## ●ロールモデル紹介冊子 I・IIの発行

先輩研究者からのメッセージを集録した冊子『千葉大学 女性研究者ロールモデル～先輩研究者からのメッセージ～』を発行



## ●キャリアプランシートの発行

新任教員は「教員版キャリアプランシート」、大学院生は「学生版キャリアプランシート」作成を通じて、今後のキャリア構築や研究をうまく進めていくためのアドバイスを受けることができます。



## ●千葉大みる・ふいーゆ(研究者を目指す女性大学院生)活動の支援

研究者を目指す女性大学院生が集まり、「みる・ふいーゆ」として活動を行っています。

平成20年度にはロールモデルの取材やポスター発表、平成21年度には研究者を目指す大学院生に向けたキャリアガイダンスを開催しました。



# 意識改革

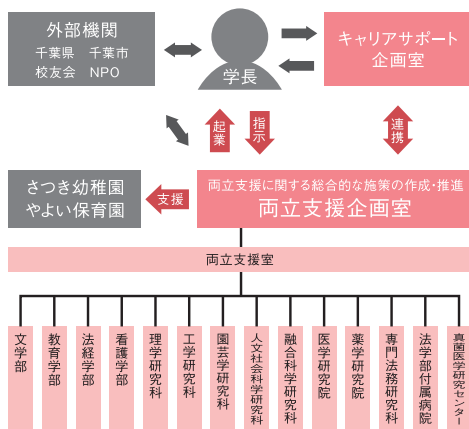
本学における 女性研究者支援や両立支援を積極的に進めるため、  
全学的な意識 改革の推進や部局ごとの状況に合わせた取り組みを実施。

## 両立支援室を設置

部局の状況に合った女性研究者支援や両立支援の独自の取り組みを実施。

各部局には「両立支援室」が設置され、部局ごとのニーズに応じた具体的な両立支援・意識改革に取り組んでいます。

各部局の取り組みの中で特に優れたものに対しては、「千葉大学におけるワーク・ライフ・バランス支援活動認証・表彰取組要領」に基づき、学長による認証・表彰を行います。



## 「両立支援に関するニーズ調査」概要

平成20年12月から平成21年2月にかけて、本学教職員・大学院生を対象に「両立支援に関するニーズ調査」を実施。教職員957名、大学院生247名、1,204名の方々から回答を得ました。



## 「調査結果から明らかになったこと」

- 男女にかかわらず能力を發揮できる環境にある
- 男女ともに助教・助手層で、両立モデルが不足
- 男女ともに両立について相談できる人がいない
- 育児・介護の支援制度が不十分と感じている人が多い(特に女性で、短時間勤務体制が取りにくいと感じている人が多い)

女性研究者支援を通じて、男女共同  
参画にもつなげていく必要がある

## ●ホームページ、ニュースレター発行による広報活動



## ●男女共同参画やワーク・ライフ・バランスをテーマとしたシンポジウムやセミナーの実施



- リーフレット「千葉大学におけるワーク・ライフ・バランス」を全教職員に配布
- 啓発DVD「キャンパスにおけるワーク・ライフ・バランス」発行
- アウトリーチ報告書の発行



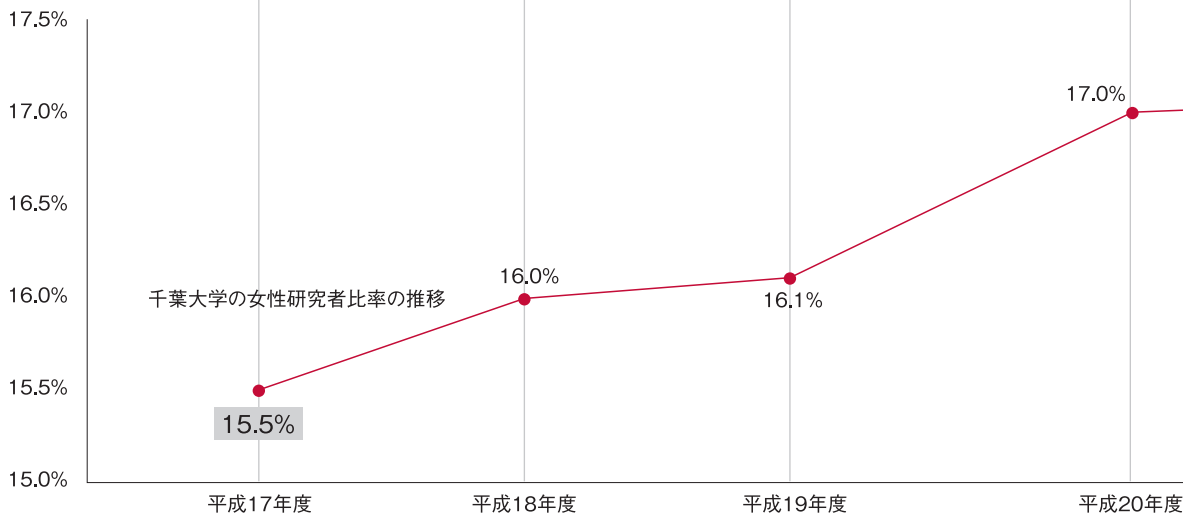
## 部局長メッセージ

園芸学研究科長(教授) 菊池眞夫  
本学園芸学研究科では、近年女性大学院生の割合が増えてきています。こうした中で、研究者支援委員の支援を受けながら研究にも子育てにも頑張っている女性研究者の存在は、より多くの学生に研究や仕事と家庭生活の両立に対する自信を持ってもらうためのデモンストレーション効果を生んでいます。  
園芸学部研究科にとっても大きな意味を持つ本学の女性研究者支援事業を、今後もさらに発展させていかなければならないと思っています。



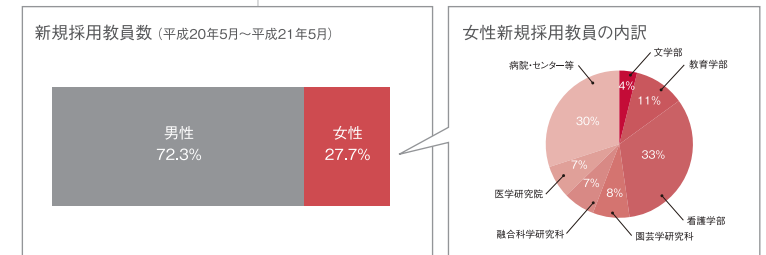
# 千葉大学における女性研究者支援の取り組み年表

これまでの取り組みにより、以下の成果が生まれました。



さらなる女性研究者支援を継続していきます。

新規採用者の女性比率目標20%以上を達成!



### 平成17年10月

千葉大学憲章(国立大学法人千葉大学の理念と目標)を制定(各個人の個性・能力等が発揮でき、優れた人材が発用されるしくみや環境を構築することを目標として、キャンパス内の男女共同参画、ハラスメント防止等を推進)

### 平成18年4月

両立支援企画室の設置

### 平成18年4月

西千葉キャンパス内に、やよい保育園が開園

### 平成19年7月

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択

### 平成19年10月

専任キャリアコーディネーターの配置

### 平成19年10月

支那キャンパス両立支援企画室開室

### 平成19年10月

第1回女性研究者支援モデル育成事業キックオフシンポジウム開催

### 平成19年10月

第1回研究支援要員配置スタート

### 平成20年1月

女性研究者支援Webサイト開設

### 平成20年2月

西千葉キャンパス両立支援企画室(女性専用休憩室)開室

### 平成20年2月

女性研究者支援モデル育成事業合同シンポジウム 報告・ポスター発表

### 平成20年3月

女性研究者へのテレビ会議システム貸出開始

### 平成20年5月

女性大学院生による千葉大みる・ふいーゆ活動スタート

### 平成20年8月

第2回研究支援要員配置スタート

### 平成20年8月

「ブチ理工系系チャレンジイベント」にて発表(白井市青少年・女性センター主催、本学両立支援企画室・お茶の水女子大学共催企画)

### 平成20年10月

北海道大学主催 国際シンポジウム ポスター発表

### 平成20年10月

第2回女性研究者支援モデル育成事業シンポジウム開催

### 平成20年12月

女性研究者支援モデル育成事業合同シンポジウム 報告・ポスター発表

### 平成20年12月

みる・ふいーゆによるポスター展(ロールモデル取材結果)開催

### 平成20年12月～21年2月

全教職員・大学院生対象「両立支援に関するニーズ調査」実施

### 平成21年2月

読売新聞に本学の女性研究者支援の取り組みが紹介される

### 平成21年3月

女性研究者対象「研究資金獲得セミナー」開催

### 平成21年4月

本学の女性部局長が3名に勤務制度改革を実施

### 平成21年6月

「千葉大学におけるワーク・ライフ・バランス支援活動認証・表彰取扱要領」制定

### 平成21年6月

「両立支援に関するニーズ調査」実施報告書発行

### 平成21年6月

第3回女性研究者支援モデル育成事業シンポジウム開催(部局GP計画発表会)

### 平成21年7月

病児保育クーポン利用受付開始

### 平成21年8月

「理系進路選択支援講座」にて、本学理系女性研究者による発表(白井市青少年・女性センター主催、本学両立支援企画室共催企画)

### 平成21年8月

西千葉キャンパスにて、夏季学童保育実施

### 平成21年9月

つくば6機関合同シンポジウムポスター発表

### 平成21年9月

産労総合研究所『人事実務』9/15号掲載 メンタリング導入事例

### 平成21年10月

みる・ふいーゆによるキャリアガイダンス開催

### 平成21年11月

本学の病児保育の取り組みについて紹介(21世紀職業財団主催「ワークライフバランスセミナーin千葉」)

### 平成21年11月

女性研究者支援モデル育成事業合同シンポジウム 報告・ポスター発表

### 平成21年12月

第4回女性研究者支援モデル育成事業 シンポジウム開催

## 両立支援企画室について

千葉大学両立支援企画室は、教職員の研究や仕事と家庭生活(育児・介護など)の両立を支援するため、平成17年に発足しました。

平成19年2月には西千葉キャンパス内に、女性専用休憩室・マタニティコーナーを備えた「両立支援企画室」をオープンし、積極的に活動を推進しています。

### 施設案内

#### 総合相談窓口

教職員や大学院生を対象に、研究や仕事と家庭生活の両立をはじめ、研究を進めるうえでの悩みなどに応じています。キャリアプランシートの利用や、先輩研究者である「メンター」の紹介を行っています。



#### 女性専用休憩室・マタニティコーナー

妊娠中の方や体調のすぐれない方、乳幼児を連れてのご利用も可能な女性専用休憩室を設置。授乳などにご利用いただける個室のマタニティコーナーや、新生児～4歳児まで利用可能なベビーラック&チェアもご用意しています。



#### 資料ライブラリー

女性研究者の歴史や男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、研究に役立つ情報に関する書籍・DVD等をそろえ、貸し出しを行っています。本学教職員には、学内便を利用した貸し出しも行っていきます。



千葉大学 両立支援企画室

E-mail: ryoritsu@office.chiba-u.jp

開室時間 / 月～金曜日 9:00～17:00 (13:00～14:00は閉室)

西千葉地区

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL & FAX: 043-290-2020(内線4043)

亥鼻地区

〒260-8673 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL & FAX: 043-226-2774(内線5782)

